

ぼくらの



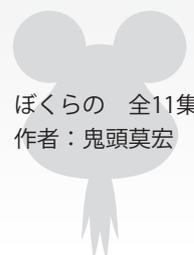
操縦したものは必ず死ぬという巨大ロボット——ジース。この作品は、ジースに乗って地球を守るために戦うことになった、15人の少年少女を描いた物語である。

夏休みに自然学校へ参加した子供たちは、ココペリと名乗る男に「ゲーム」だと誘われ、ジースのパイロットとして契約する。契約した15人は1人ずつ順番にジースを操縦して、地球を襲ってくる15体の敵と戦わなければならない。戦いに敗北したり、48時間以内に決着がつかなかったりした場合は、地球が破壊され全人類は滅びてしまうのだ。しかしたとえ勝利しても、ジースを操縦した者は戦闘終了後に必ず死んでしまう。ジースと契約した子供たちには、世界を守って死ぬか、全人類を道連れにして死ぬかの2つに1つしかないのだった……。

この作品は、ジースの操縦者が指名されてから、その戦闘が終わるまでの期間をひとまとまりとして、操縦者1人ずつに焦点を当てるオムニバス形式をとっている。子供たちは自分の死という運命と向き合いながら、敵との戦いがおとずれるまでのひとときを過ごす。ある者は自分の運命を受け入れ、ある者は守るものに対する疑いを抱きながら、それでも自分の生きてきた世界を守るため戦いに臨む姿が描かれている。

大切な人を残して死にゆくことに対する未練や、戦うことに対する葛藤など、思春期の少年少女の繊細な心理描写がこの作品の魅力だろう。安易な言葉に頼らず漫画特有の表現を巧みに使って、子供たちの心の動きや、パイロットを取り巻く人々の微妙な思惑を表している。読者は物語を読み進めるごとに、その表現の巧妙さに気づかされるのだ。

自分の命と引き換えに世界を守ることを強要された子供たちを描く、「重い」物語。極限の状況に置かれた少年少女が、自らの人生や家族、社会との繋がり、そして生命そのものの意味を問い直してゆく。その姿は、読者に感動を与えることだろう。(Johnson)



ぼくらの 全11集
作者：鬼頭莫宏



小腹がすいた

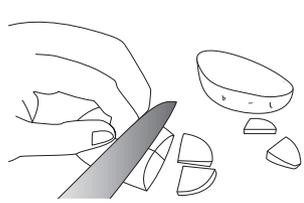
一品足りない!

そんなときにぴったりのおかずです!

ツナじゃが

材料 (1人分)

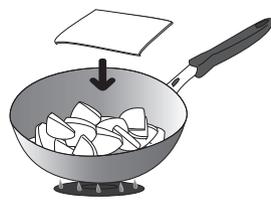
じゃがいも 中1個
 ツナ缶 1缶 (80g)
 しょうゆ 適量
 スライスチーズ 1枚
 *ツナ缶の代わりにかつお缶を使ってもおいしいですよ。



① 洗って皮をむいたじゃがいもをいちょう切りにし、電子レンジ(500W)で1分程度加熱する。



② ①とツナ・しょうゆを和え、熱したフライパンに入れてふたをし、弱火で蒸し焼きにする。



③ じゃがいもがやわらかくなったら上にチーズをのせ、チーズがとろりしたら完成。

はみだし すてーじ ⇒ だし

(経・2 鳥美味)

(類：つうかあ；編)